第十四講　実践演習⑷『発心集』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

奈良に、松室（まつむろ）といふ所に僧ありけり。官（くわん）なんどはわざとならざりけれど、徳ありて用ゐられたる者イになんありける。そこに、幼き児（ちご）①の、ことにいとほしくするありけり。この児、朝夕、法華経を読み奉りければ、師これをうけず、「幼き時は（注１）学文（がくもん）をこそせめ。②いとげにげにしからず。」など諫められて、一度は随（したが）ふやうなれど、ややもすれば、忍び忍びになん、これを読む。いかにも志（こころざし）深き事と見て、後には、誰も制せずなり③にけり。

かかる程に、十四、五ばかりになりて、この児④いづちともなく失せぬ。師大きロに驚きて、いたらぬくまもなく尋ね求むれど、さらになし。「（注２）物の霊（りやう）なんどに取られたるなめり。」といひて、泣く泣く⑤後の事なんどとぶらひてやみにけり。

その後、月ごろ経て、この房にある法師の、薪採らんとて山深く入りたりけるに、木の上に経読む声ａ聞こゆ。あやしくてこれを見れば、失せハにし児なり。［Ｘ］覚えて、「いかにかくてはおはしますぞ。さしも嘆き給ふものを。」といへば、「その事なり。さやうの事もｂ聞こえんとて、逢ひ奉らんと思へど、便り悪しき事ニになりて、Ａえなん近づき奉らず。うれしく見

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

え逢ひたり。Bこれへ、かまへておはしませと申せ。」といひければ、走り帰りて、この由を語る。

師驚きて、即ち来たる。児語りていはく、「我、（注3）読誦（どくじゆ）の仙人にまかりなつて侍るなり。日ごろも御恋しく思ひ奉りつれど、かやうにまかりなつて後は、聞くべき便りもなし。大方、人のあたりは穢（けが）らはしく、臭くて、堪ゆべくもあらねば、思ひながら、えなん詣でざりつる間、近うて見奉る事はえあるまじ。」といひて、ともに涙を落しつつ、やや久しく語らふ。

（『発心集』）

（注）
1　学文…仏典の学習。
2　物の霊…たたりをなす霊魂。死霊、生き霊などの怨霊。
3　読誦…声を出して経文を読むこと。読経。

問一　傍線部①「の」の用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　主格　　ロ　連体格　　ハ　同格　　ニ　準体格

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部②「いとげにげにしからず。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　さっさと逃げだしたほうがよい。
ロ　師の言うことを軽んじてはならない。
ハ　心の底から叱っているのではない。
ニ　あまりふさわしいこととはいえない。

問三　傍線部③「に」と文法的に同じ働きをするものを、問題文中の波線部イ～ニから一つ選べ。

問四　傍線部④「いづちともなく失せぬ。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　どんな病気になろうが死なない。
ロ　どういう理由かわからないまま死んでしまった。
ハ　どんなことがあってもいなくならない。
ニ　どこへともなくいなくなってしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部⑤「後の事なんどとぶらひてやみにけり。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　後継者のことが心配で病気になってしまった。
ロ　それから児の行方を何度も探してあきらめてしまった。
ハ　死者のための法事などを営んで終わってしまった。
ニ　児の将来などを案じて後悔するほかなかった。

問六　傍線部ａ・ｂの意味・用法と同じものとして最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

イ　竹の中より見つけ聞こえしかど…
ロ　帝のたまはすれど、女御は御いらへもえ聞こえ給はず。
ハ　むかし名だかく聞こえるところなり。
ニ　松風、いと耳近う心細く聞こえて…

ａ＝　　　　ｂ＝

問七　空欄Ｘに入る最も適当な語を、次の中から選べ。

イ　すさまじく　　　ロ　はづかしく
ハ　おもしろく　　　ニ　あさましく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部Ａ「えなん近づき奉らず。」を現代語訳せよ。

問九　傍線部Ｂ「これへ、かまへておはしませと申せ。」を「申す」の主体と客体を補って現代語訳せよ。

問十　二重傍線部「奉る」は、誰から誰への敬意か答えよ。

問十一　次のイ〜ハについて、物語の内容に合っていれば1、合っていなければ2と記せ。

イ　児は師に戒められても、こっそり法華経を読み続けた。

ロ　師の僧が薪を集めに山に入ったところ、失踪した児と思いがけず再会した。

ハ　仙人となった児は、山中に住む自分の臭いが人間には耐えられないと考えた。

イ＝　　　ロ＝　　　ハ＝

問十二『発心集』の編者の名前を漢字（楷書）で書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　復習問題

①「筑紫の者の、友なる二人、高野に住みて、北、南に住処（すみか）を構へて侍りければ、時の人『南筑紫』『北筑紫』と言ひけるなるべし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　主格　　イ　連体修飾格　　ウ　目的格　　エ　同格

②「いたくむげならぬ家」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　少しも悪くは見えない
イ　たいして貧相に見えない
ウ　全く傷んだところが見えない
エ　ひどく目立っているようには見えない

③「しのびて渡りて見れば、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自由に　　イ　こっそりと
ウ　なつかしんで　　エ　のんびりと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「更にえかくし申すまじ」の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　つけ加えて隠し申し上げるべきではない
イ　まったくもって隠し申し上げるのがよいだろう
ウ　そのうえ隠し申し上げることができないようにしよう
エ　おそらく隠し申し上げることになるだろう
オ　決して隠し申し上げることはできないだろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　模範解答

問一　ハ
問二　ニ
問三　ハ
問四　ニ
問五　ハ
問六　a　ニ　　b　ロ
問七　ニ
問八　近づき申し上げることができない。
問九　ここに、必ずいらっしゃってくださいと、あなたが師（の僧）に申し上げよ。
問十　児から師（の僧）へ
問十一　イ　1　　ロ　2　　ハ　2
問十二　鴨長明

〈現代語訳〉

奈良に、松室という所に僧がいた。官職などはことさらならなかったが、徳があって用いられた者であった。そこに、幼い稚児で、特に（その僧が）かわいがっている稚児がいた。この稚児が、朝夕、法華経をお読み申し上げたので、師の僧がこれを認めず、「幼い時は仏典の学習をするのがよい。（読経は）あまりふさわしいこととはいえない。」などと忠告されて、（稚児は）一度は従う様子だが、どうかすると、こっそりと、これを読経する。きわめて志の深いことと見て、後には、誰も制止しなくなった。

こうしているうちに、十四、五歳くらいになって、この稚児がどこへともなくいなくなってしまった。師はたいそう驚いて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いたるところを隅から隅まで尋ね求めたが、まったくいない。「怨霊などにとられたのであるようだ。」と言って、泣く泣く死者のための法事などを営んで終わってしまった。

その後、数か月経って、この僧坊にいる法師が、薪をとろうとして山深く入ったところ、木の上で読経する声が聞こえる。不思議でこれを見ると、失踪した稚児である。驚き意外に思って、「どうしてこんな様子でいらっしゃるのか。（師があれほど）嘆きなさったのに。」と言うと、「そのことである。そのようなことも申し上げようと思って、お会い申し上げようと思うが、都合が悪いことになって、近づき申し上げることができない。（あなたに）嬉しくもお目にかかった。ここに、必ずいらっしゃってくださいと（あなたが師に）申し上げよ。」と言ったので、（その法師は）走り帰って、このことを語る。

師は驚いて、すぐに来た。稚児が語って言うには、「私は、読経の（功によって）仙人になっております。いつも（師を）恋しく思い申し上げていましたが、このようになりまして後は、（師のことを）聞くことができる手段もない。大体、人の住むところは汚らわしく、臭くて、（私には）堪えられないので、（師のことを）思いながら、（師のもとに）参ることができませんでしたので、（これからも）近くで見申し上げることはできないだろう。」と言って、ともに涙を流し続けて、しばらく語り合う。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十四講　解答解説

〈解説〉

① 「友なる」の「なる」が断定の助動詞の連体形。この「なる」の下に「の」の上の名詞「者」を入れて、「筑紫の者で、友達である者が二人、高野山に住んで〜」と訳しておかしくないため、この「の」は同格。よって、正解はエ。

② 「いたく」は「とても」の意味だが、打消と一緒に用いると、「あまり〜ない」「たいして〜ない」の意味になる。よって、正解はイ。

③ 「しのぶ」は重要単語で、「隠れる・人目を避ける」「我慢する」という意味。ここでは、「人目を避けて＝こっそりと」の解釈で、イが正解。

④ 「さらに〈＝更に〉〜打消」は、「全く〜ない」「決して〜ない」の全否定の意味。「え〜打消」は「〜できない」という不可能の意味である。よって、両方の解釈がきちんとできているオが正解。

〈解答〉

①　エ　　②　イ　　③　イ　　④　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。